

たかやま共創ミーティング（第5弾）

○テーマ 誰もが働きやすく、暮らしやすい多文化共生社会について考える

○ミーティング内容（参加者の意見等）

■情報関係

- ・生活のための情報、文化の情報等どのような情報が不足しているのか発信側がわかっていない
- ・イベント、SNS、相談窓口の周知の仕方について、もっと外国人や日本人を巻き込む方法がよい
- ・20年以上県の多文化共生推進委員や飛騨高山国際協会で日本語講座の講師を行っている。また、市内の小・中学校では日本語支援員（保健相談員）として支援にあたっているため、転入時に外国由来の児童・生徒の情報があれば、所属校以外の情報も共有してほしい
- ・支所でもSNSや相談窓口のチラシを配布してほしい
- ・市内の標識を多言語化してほしい。例えばスーパーに行っても、どこに何があるのか分からずとてもストレスを感じる
- ・市民にもっと高山市に住む外国人のことを知ってほしい

■日本語教育

- ・マンツーマンなど寄り添った対応（日本語指導）ができていない
- ・日本語学習の充実を図ってほしい
- ・日本語を教える人材（先生）がいない
- ・日本語講座や「やさしい日本語」講座など、日本語サポートの充実や市民との交流の場が必要
- ・日本のことを紹介する勉強はするが、市民が他国を知ろうとする努力はしているか。

■子ども・教育

- ・日本での子育てに困っていることはないかを知りたい
- ・子育て中に母国と比べて不便なことがあれば教えてほしい
- ・在住外国人の子どもが保育園に入園するケースが増加しているため、卒園する前の就学支援が今後必要となってくる
- ・外国由来の子どもが増加していくため、各国の言葉を指導できる教育が必要
- ・子どもだけでなく保護者の安心も必要
- ・義務教育以降の在住外国人の子どもたちの進学相談が必要
- ・日本語を話していても、学習言語で困っている子どもがいる
- ・高校への進学を目指せるかどうかという子どもたちがいる
- ・ALT等の学校訪問をもっと行いたい

■交流

- ・気軽に集まれる場所がない（外国人の方用）

- ・交流する場所がない
- ・外国由来の子どもたちも遊べるイベントがあると良い
- ・神社で各国のバザーをしたい
- ・外国人向けの多文化交流会ではなく、日本人も外国人も参加できるイベントが良い
- ・在住外国人と話をするとスポーツをやりたい人が多い（サッカー、バスケなど）
- ・生活している中で交流する機会が少ない（ほぼない）
- ・市民とふれあうイベント（異文化）が意外と少ない
- ・外国の人に自国の料理を教えてもらいたい
- ・言葉の壁をうめる関わり方を知りたい
- ・移住してきた人に歓迎パーティーのようなものがあると良いのではないかな
- ・互いの国の祝日を祝うイベントがあっても良いのではないかな
- ・外国人に対して日本の文化を紹介するイベントをしてほしい
- ・外国人の子どもと一緒に遊んで、気軽にコミュニケーションを取れると良い
- ・在住外国人なのか訪日観光客かがわからず、在住外国人に接する機会が少ない
- ・外国の方と共にバス旅行に行きたい
- ・各国オリジナルの店が市内にあって、グッズや食べ物があると楽しい
- ・講座などの場や機会を作っても周知ができていないため、参加者が少ないことがある
- ・「毎月〇日は姉妹友好都市など〇〇DAY」として市内で食べ物の提供などがあると良い
- ・外国の方とカラオケ大会をしたい
- ・富山県ではALT先生の出身国に関するイベントがあるので、高山市または飛騨地域で同様のイベントがあっても良いのではないかな
- ・協力的な外国人を中心とした多文化共生への市民を巻き込んだイベントや外国人の滞在目的に合わせたイベントを実施してはどうか
- ・姉妹友好都市とのオンライン交流をしてはどうか
- ・市民と外国人がコミュニケーションをとれる時間があると良いが、仕事に追われて、疲れてしまい、なかなかできない
- ・在住外国人が出身国の文化を共有できる国際交流イベントを主催してはどうか

■暮らし・生活

- ・田舎暮らしは車がないと不便である
- ・公的な書類や手続きなどがわかりにくいので多言語化してサポートしてはどうか
- ・住宅（住まい）を借りる際に外国人だとなかなかOKがでない
- ・高山市のごみの捨て方のルールをわかりやすく伝えてほしい
- ・ゴミカレンダーを多言語化してほしい
- ・外国人だけのコロニーができないように、市民と交流ができる取り組みが大切
- ・高山市の在住外国人の主流は定住者なのか一次労働者なのか現状を知りたい
- ・困った時の24Hダイヤルなどかけつけ隊などがあると良い
- ・外国人の方にも町内会に入ってもらって地域のイベントなどに参加してもらう
- ・転入者に配布している生活ガイドブックを活用してほしい
- ・多言語の電話通訳サービスの提供があると良い
- ・LGBTQIA+コミュニティは文化の多様性に含まれていると思うが、高山市でLGBTQIA+コミュニティに対する意識が低い

- ・外国の友達が家族と一緒に居酒屋へ行った時、急に断れたことがあり、歓迎の感じがなかった

■仕事

- ・仕事の求人など企業側に外国人を受け入れる意識を高める必要がある
- ・外国人を雇用している会社（特に現場）の異文化理解が大切である
- ・2027年在留資格に関する法改正があり、育成就労となるため移民政策に向けた外国人のサポート体制のあり方を注視している
- ・増え続ける働き手（外国人材）の受け入れを今後どうしていくのか
- ・在住外国人の就労場所は市民から見えない場所（例えば工場や厨房など）が多く、実態がよく分からない
- ・文化的な感受性の違いの研修や異文化の理解を深める研修を提供すること
- ・初来日者に対して日本のマナーまたは職場の文化についての授業の提供があると良い
- ・在住外国人が運営するビジネスに対する支援があると良い
- ・人口減少の中、高山市は外国人受入を期待できる地域なのか
- ・外国人の受入れの際に気を付けることは何か

■災害

- ・災害時にどう避難させるか不安である
- ・外国人向けのハザードマップを作ってはどうか
- ・一緒に防災訓練をしてはどうか
- ・AEDを使ったり、避難経路を共に歩いたりしてはどうか
- ・防災行政無線を多言語化にしてほしい（何を言っているかとても気になる）

■相談窓口

- ・全ての方のお困りごとに対応できているのか分からない
- ・困っていることはと聴くことが多い気がするが、そのほかにも参加したいとか関わりを持ちたいことがあるのではないか
- ・相談窓口の利用件数と相談内容について知りたい
- ・今後、在住外国人向けの専用の場所（ワンストップセンター）に相談窓口や、気軽に交流する広場ができると良い

■その他

- ・東濃地方の外国人対応はどうしているのか知りたい
- ・「外国人」と呼ばずに「外国から来た人」と呼んではどうか
- ・町内の役員を屋押しで回している。他所の神社で総代が外国人になったというニュースを知った。役回りを理解しているのか心配である
- ・国際協会がもっと在住外国人に目を向けてほしい
- ・在住外国人へアプローチする場が全体的に少ない
- ・在住外国人は引きこもっているのか
- ・市民課の前に大集団の外国人がいるのはどのような方たちか
- ・日本（高山）で外国人向けのビジネスを行うことにチャンスを感じるかどうか知りたい